10 理想のシナリオと対象児童への手立て

理想のシナリオ	想定されるつまずき	つまずきに対する手立て
（ワークシートを配っておく。） T みなさん動物園に行ったことはありますか。 今日は動物園で，たくさんの動物が出てきますよ。 今日の問題です。問題を読みましょう。 （絵がない問題を提示） もんだい おすの らいおんと めすの らいおんは， みんなで なんとう いますか。 T 今日の問題を読んで式を書けますか。 C これだけでは，式が書けません。 C 分かっている数がありません。 C おすとめすのらいおんの数が分かりません。 T そうですね。 分かっている数がなかったら式ができませんね。 この問題文では式が書けませんね。 T では，今日は，問題文を解くために，どんな数や言葉が大切かを考えていきましょう。 課題を書きましょう。 かだい どんなけいさんになるか かんがえて，せつめいしよう。 T これならどうでしょう。 （教科書の挿絵を提示） C 絵の数を数えたら分かります。 C おすのらいおんは4とう， めすのらいおんは7とうです。 T おすの数とめすの数がわかりましたね。 T ワークシートにおすとめすの数を付け足しましょう。 C（付け足す） T それでは読んでみましょう。 C（読む）	・数を正しく数えることができない。 ①おすの らいおんが ④とう います。 めすの らいおんが ⑦とう います。 らいおんは，みんなで なんとういますか。	・絵に印をつけさせ，ライオンが何頭いるか数えさせる。

T　分かっている数，聞かれていることは何ですか。 C　分かっている数は，おすのらいおん4とう，めすのらいおん7とうです。 C　聞かれていることは，「らいおんは，みんなで　なんとういますか。」です。 T　どんな式になりますか。どうしてそう考えたのかも言いましょう。	・分かっている数に〇，聞かれていることに波線が引けない。	・問題文の中の「分かっていること」に〇，「聞かれていること」に波線を一緒に引くことで，問題場面を整理させる。
C　たし算です。 C　「みんなで」という言葉があるからです。 C　合わせるからです。 C　おすとめすで数が増えるからです。 T　それでは式を書きましょう。 どんな式になりましたか。発表しましょう。 C　4＋7です。 T　たし算の式ができましたね。 答えも出しましょう。 答えを発表しましょう。 C　4＋7＝11 です。11 頭です。 T　そうですね。たし算の問題ができましたね。 T　このたし算は，どのたし算でしょう。 C　「あわせて」です。（動作化） T　図で表すと，どうでしょう。 （子どもと一緒に図を作る。） T　もう一度，どうしてこの計算になったかを説明しましょう。 C　この4は，おすのライオンの4です。図で表すとここです。（図を指す）この7は，めすのライオンの7です。図で表すとここです。（図を指す）全部で 11 なので，「あわせる」のたし算になります。 T　もう一度，このたし算を体で表しましょう。 C　「あわせて」（動作化） T　2番はどうでしょう。何の動物がいますか。 C　親のしまうまと子どものしまうまがいます。 T　そうですね。問題②を解きましょう。 問題を読みましょう。 今度は，どんな式になりますか。 C　分かっている数がないので，書けません。 C　親のしまうまと子どものしまうまの数がいります。	・何算になるか分からない。	・「あわせる」の言葉に着目させ，何算になるか全体で確認してから，立式させる。 ・ノートに書けているかできているか机間指導する。できていない児童には，式，言葉，図を関連させて，一緒に図を書く。

C　親のしまうまと子どものしまうまが何頭いるかがいります。 T　親のしまうまと子どものしまうまの数を数えて□に書きましょう。 C（個人思考：プリント） T　どんな問題になったか発表しましょう。 C　親の　しまうまが　12 とう　います。 子どもの　しまうまが　3 とう　います。 どちらが　何頭　多いでしょうか。 です。（2～3 人に発表させる） T　どんな式になりますか。どうしてそう考えたのかも言いましょう。 C　ひき算です。 C「どちらが何頭多いでしょう」という言葉があるからです。 C　親のしまうまと子どものしまうまを比べているからです。 C　12－3です。 C　比べるときは，多い数から少ない数をひくから12－3です。 T　そうですね。答えを出しましょう。 C　12－3＝9です。 親のしまうまが 9 頭多いです。 T　式と答えを皆で読みましょう。 C（式と答えを読む） T　このひき算は，どのひき算ですか。 C「くらべる」です。 C　あまったところが違いになります。 T　図で表すと，どうでしょう。 （子どもと一緒に図を作る。） T　もう一度，どうしてこの計算になったかを説明しましょう。 C　この 12 は，親のしまうまの 12 です。図で表すとここです。（図を指す）この 3 は，子のしまうまの3です。図で表すとここです。（図を指す）くらべているので，「くらべる」のひき算になります。答えの9は，図で表すとここです。（図を指す） T　もう一度，このひき算を体で表しましょう。	②おやの　しまうまが　12とう　います。 こどもの　しまうまが　③とう　います。 どちらが　なんとう　おおいでしょうか。 ・立式ができない。	・数えるときに落ちがないように印を付けさせる。 ・個別に行って問題文や式を確認し，式，言葉，図を関連させて，一緒に図を書く。 ・親と子の絵を見せて確認させる。分かっている数を確認させる。

C 「手をつないでさようなら」(動作化) T 問題③も解きましょう。何の動物がいますか。 C ぺんぎんが泳いでいます。 T 問題文を読みましょう。 C (問題文を読む) T このままで式が解けますか。 何の数がわからないといけませんか。 C 島にいるぺんぎんの数がわかりません。 T まず，島にいるぺんぎんの数を数えましょう。 C 島にいる数は，8羽です。 C はじめの数は，8羽です。 T そうですね。 島に丸囲みして，動いているぺんぎんに 矢印を書き入れてみましょう。 C ぺんぎんが増えています。 T 問題文の□に数を入れましょう。 C (個人思考) T 発表しましょう。 C しまに　ぺんぎんが 8 わ います。 しまに 4 わ くると，しまに いる ぺんぎんは なんわに なりますか。 です。 T どんな式になりますか。どうしてそう考えたのかも言いましょう C 足し算です。 C 増えているから，たし算になりそうです。 C 8＋4＝12 です。12 わです。 C 増えているからたし算です。 C 「来ると」だからたし算です。 T そうですね。 答えを発表しましょう。 C 8＋4＝12 です。12 わです。 C 「増えると」のたし算です。 T 図で表すと，どうでしょう。 (子どもと一緒に図を作る。) T そうですね。もう一度，このたし算を体で表しましょう。 C 「ふえると」(動作化)	・問題場面が把握できない。 ③しまに　ぺんぎんが ⑧わ います。 しまに ④わ くると，しまに いる ぜんぶで ぺんぎんは なんわに なりますか。	・島にいるぺんぎんを〇囲みして8，動いているぺんぎんに矢印をひき，8と4を意識させる。 ・問題①の合併と違って，増加のたし算だということをおさえる。

T　今日は問題文を解きました。 　問題文を解くために，どんな数や言葉があれば問題文を解くことができますか。 C　分かっている数です。 C　分かっている言葉が必要で，分かっている数は，2つ必要です。 T　どうして，たし算になるか，ひき算になるか分かったのですか。 C　たし算言葉やひき算言葉からです。 T　分かっている数と「ぜんぶで」や「どちらが」などのたし算言葉やひき算言葉が大切でしたね。 　今日のまとめを書きましょう。 まとめ ・わかっているかず2つを　見つける。 ・たしざんや　ひきざんの　ことばを見つける。	・問題文を解くために，どんな数や言葉があれば問題文を作ることができるか分からない。	・たし算ことば，ひき算ことばの板書や分かっている数に着目させる。
T　この考え方を使って練習問題を考えましょう。 　始めのらいおんの問題ですが， 　こうすると何算になりそうですか。 練習問題 　おすの　らいおんが　④とう　います。 　めすの　らいおんが　⑦とう　います。 　どちらが　なんとう　おおいでしょうか。 T　問題を読みましょう。 C（問題を読む） T　式と答えを書きましょう。 C（個人思考） T　どんな式になりましたか。発表しましょう。 C　7－4＝3です。めすのらいおんが3頭多いです。	・練習問題が解けない。	・たし算言葉，ひき算言葉に着目させる。

T　どうして7－4なのですか。 C「どちらがなんとうおおいでしょう」という言葉があるからです。 C　おすのらいおんと，めすのらいおんを比べているからです。 C　比べるときは，多い数から少ない数をひくからです。 T　最後の言葉が変わるだけで，たし算がひき算に変わりましたね。 T　式と答えを皆で読みましょう。 C（式と答えを読む） T　よくできました。 T　今日のふり返りを発表しましょう。 C　問題を解くときは，分かっている数を見つけるとよいことが分かりました。 C　問題を解くときは，たし算やひき算の言葉に気をつけるとよいことが分かりました。		